

85th
ごあいさつ
Anniversary

歴史ある公立病院のさらなる飛躍を

徳島市病院局長 後藤田 勲

徳島市民病院が85周年を迎える年に病院局長として在職し、こうして記念誌を発行できたことは大変嬉しく思っております。

私は徳島市役所に勤めて今年で36年目となりますが、これまでの間、市長部局での勤務が長く、平成21年4月に市民病院に異動するまでは市民病院での勤務経験はありませんでしたので、これまでと全く違う環境の中で自分は何ができるのだろうかと大変不安でした。一方で、新病院の建設も既に第1期工事が完成し、新病院での診療も始まっていたことから、新しい病院での勤務のスタートとなり、こんな素晴らしい病院で仕事ができるのかと身の引き締まる思いであったと記憶しております。新病院の建設も第2期工事の真っ最中でもあり何かと落ち着かない雰囲気ではありましたが、平成22年3月には全ての工事が完成し新しい病院に生まれ変わりました。

現在、市民病院での勤務も4年目でございますが、未だに、多岐にわたる職場の業務内容等を皆さん方にお聞きしながら、露口病院事業管理者の補佐としての務めを何とか果たしているところでございます。

今申し上げましたように、私は新しい病院が完成してから勤務しているものですから、旧の病院のことは知りませんでしたが、市民病院が昭和3年2月に開設され県内で最初の公立病院であると知ったときは驚いたものでした。長きにわたり市民から愛され続けた賜物であり、今いる私たち職員の一人一人がこの機会に今一度、この歴史と伝統のある病院に誇りを持つとともに、85周年を一つのステップとして、さらに将来に向かって飛躍することを願わずにはられません。

さて、新しい病院が完成し、急性期医療を担う地域の中核病院として、地域の医療機関との機能分担や連携を図りながら、職員が一丸となって医療サービスの向上と経営基盤の強化に取り組む毎年確実に成果を上げてきておりますが、これまでの間、病院経営は決して順調ではなく先輩の職員の方達が大変苦労されてきました。

経営面を振り返ってみますと、平成21年度まで赤字決算が長らく続き、不良債務も発生するなど厳しい経営状況が続いておりました。そのため、経営改善に向けて、「病院事業の今後の経営に関する計画（計画期間：平成10年度から平成14年度）」及び「第2次経営改善計画（計画期間：平成15年度から平成18年度）」を策定し、業務の委託化を推進することなどにより経費の削減に取り組んでまいりましたが、この間に診療報酬のマイナス改定や入院患者の減などにより、収支計画を下回る厳しい経営状況が続いておりました。そこで、病院の経営形態もより独立性の高い組織として、平成18年度から地方公営企業法の全部適用に移行し病院事業管理者を設置するとともに、新病院建設を機に新たに「新病院経営改善計画（計画期間：平成19年度から平成28年度）」を策定し、効率的な病院経営により不良債務の解消と単年度収支の均衡に向け職員が一丸となって経営の健全化に取り組んでまいりました。

その結果、平成22年度及び平成23年度において黒字決算となり、不良債務も解消され、一歩ずつではありますが、経営健全化に向けた取り組みも成果を上げてきていると感じております。

市民病院は地域における中核的な公立病院として、地域医療に重要な役割を果たしておりますが、将来にわたって地域で必要とされる医療を安定的に提供し続けることが市民病院の役割であると認識しておりますので、90周年、100周年に向けてさらに飛躍してまいりたいと考えております。